

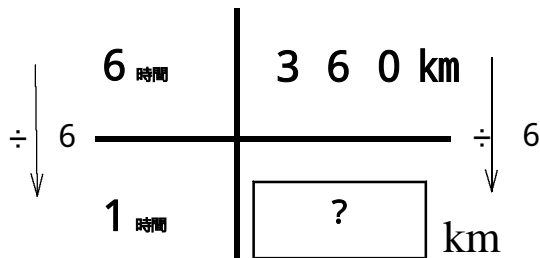
「速さ」と「単位あたりの量」の必殺技 **田の式**

速さを学習するのに当たって一番の曲者は何でしょう、と言うとそれは「立式」です。

「いったい何を何で割れば良いの？」これを解決してくれる良案です。例を挙げて説明しましょう。これは5年で学習した単位あたりの量でも有効です。

6時間に360km走る乗用車1の  
時速は何kmですか。

時速とは「1時間あたりに進む道のり」でしたね。そこでこれを解くために「田の式」というのを使います。



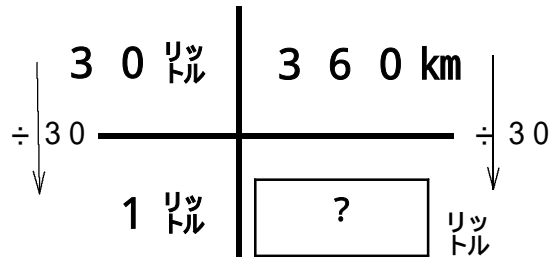
つまり6時間を1時間にするのに右側では  $6 \div 6$  をして1時間にしますので、360kmのほうも  $\div 6$  ですので

$$360 \div 6$$

という式で求められることがすぐにわかるのです。では5年で学習した「単位あたりの量」ではどうするのでしょうか。

30リットルで360km走る乗用車は、  
1リットルあたり何km走りますか

これも田の式というのを使います。



つまり30リットルを1リットルにするのに右側では  $30 \div 30$  をして1リットルにしますので、360kmのほうも  $\div 30$  ですので

$$360 \div 30$$

どうですか？「田の式」は「速さ」や「単位あたりの量」の学習には必須ですね。

明日は「速さ」のテストを予定しています。自学などでこの「田の式」や時速・分速・秒速の関係もね。

